

ゲッケイジュ

【区画②③(154)】

学名	<i>Laurus nobilis</i> L.	分類	クスノキ科ゲッケイジュ属
分布	日本各地の庭園に植生	樹高	12m程度の常緑小高木

〈特徴等〉

名前の由来	・英華辞典でローレルを翻訳した際に、月桂樹と名づけられた。		
葉の特徴	① 常緑・落葉	② 広葉・針葉	
	③ 対生・互生	④ 単葉・複葉	⑤ 鋸歯縁・全縁
開花等	・春に、葉の付け根に、黄色の小さい花を密集してつける。		
結実等	・果実は楕円状の丸い形で、10月頃黒紫色に熟す。		
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・葉は香りがあり、「ベイリーフ」と呼ばれ香味料になる。 ・この枝葉を輪にして冠とし、「オリンピック」競技の名誉の証とした。 		

〈写真〉

		
樹木 (4/3)	樹皮 (4/3)	葉の付き方 (4/3)
		
葉 (6/12)	花 (/)	果実(実) (/)

〈参考文献〉 牧野富太郎(2017)『新分類 牧野日本植物図鑑』北隆館, p.181.
 林 将之(2018)『葉で見わかる樹木 増補改訂版』小学館, p.105.